

文化交流・海外広報課での勤務

平成29年9月
外交実務研修員 牧 俊宏
(滋賀県より派遣)

1 はじめに

私は平成28年4月より外交実務研修員として滋賀県庁から外務省に派遣されました。東京での新たな経験，出会いに期待を抱きつつも，それを上回る漠然とした不安を抱え，外務本省での勤務が始まったのが昨日のこのように感じておりますが，気がつけば派遣からもうすぐ一年半となります。今回，このようなタイミングで寄稿する機会を頂きましたので，私の外務省での業務を紹介したいと思います。

2 日本文化の発信

現在，世界中で国境を越えた活動が活発に行われています。日本人がこれらの活動や世界の人々との交流を円滑に進める上で，海外の方々の日本に対する関心を高め，理解と信頼・親近感を深めてもらうことは非常に重要です。私が配属された文化交流・海外広報課では，良好な対日イメージ・親近感の醸成や日本に対する正しい理解の促進等を目的として，在外公館（大使館，総領事館等）を通じた日本文化の紹介や国際交流基金を通じた海外での日本語教育普及や日本研究に対する支援を行っています。さて，皆さんは「日本文化」といった場合，何を想像されるでしょうか。おそらく多くの方が歌舞伎や茶道など伝統的な文化を想像するのではないのでしょうか。外務省に来るまでの私もそうでした。しかし，外務省ではこのような伝統文化・芸術に加えて，近年世界的に人気の高いアニメや漫画等のポップカルチャーについても日本の文化として発信をしています。日本のポップカルチャーは，特に若年層に人気があり，日本に対して興味を持つきっかけとなります。また，日本語学習の入口にもなっています。本稿では，日本のポップカルチャーの発信として私が担当している，日本国際漫画賞について紹介させて頂きたいと思います。

3 日本国際漫画賞

日本国際漫画賞は，世界に広がる漫画文化を通じて国際交流と相互理解の輪を広げることを目的として，平成19年に麻生外務大臣（当時）により創設されました。海外へ

の漫画文化の普及と漫画を通じた国際文化交流に貢献した漫画作家を顕彰するもので、昨年度で第10回を数えました。第10回では、55の国・地域（応募国・地域数は過去最多）から296作品の応募があり、漫画家の先生や漫画雑誌編集者の審査委員の厳正な審査を経て、最優秀賞1作品、優秀賞3作品が選ばれ、授賞式にて表彰を行いました。最優秀賞は、ベルギーで出版された作品（作者・原作者はフランス人）が受賞しました。本賞の受賞者からは授賞式の際に「自分の作品が日本という漫画大国で認められたことは非常に嬉しく、私自身にとってもとても大きな励みになります。」、「私は8歳の時から日本に来る夢をずっと持ち続けていました。私はアニメを見て育ち、そして、漫画を読むことで、絵を描くこと



第10回日本国際漫画賞受賞者と授賞式に参加の漫画家の先生達（平成29年2月）

の喜び、絵を描くことへの愛情を深めてきました。」等のスピーチがあり、私は改めて日本のポップカルチャーの魅力や発信力のすごさを実感するとともに、日本文化の多様さを再認識しました。

4 終わりに

外務本省での勤務も残すところ半年あまりとなりましたが、この一年半はあっという間でした。当初は外務省の独特の言葉遣いや仕事の進め方等、派遣元との違いに戸惑うこともありましたが、周りの皆さんの温かいサポートや助言のおかげで何とか業務を進めることができました。また、地方自治体勤務では出会うことができなかった方々や様々な業務に携わらせて頂き、貴重な経験をすることができました。外務省での経験を活かし、今後滋賀県に貢献できるよう、引き続き日々研鑽していきたいと思っております。最後になりましたが、このような機会を与えてくださった滋賀県及び文化交流・海外広報課の皆様をはじめ、外務省でお世話になったすべての方々に改めて感謝申し上げます。